

佳作

水のリサイクルできれいな水を

岡山県 倉敷市立連島神亀小学校四年 井上 真綾

私は、この夏休みに、家族と友達と一緒に水島下水しよ理場の見学に行きました。そこでたくさんのお話を学びました。

私達が生活で使った水は、汚水となり、地下を通って、下水道管に集まります。そして、少しかたむいた下水道管の中を、人が歩く速さで水島下水しよ理場に流れていきます。

水島下水しよ理場に集まった汚水は、においも強く、茶色くにごっています。このよごれた水が、いくつかのしよ理をされて、きれいな水に生まれ変わります。

まず、砂や大きなゴミを取りのぞき、次に、細かいよごれをすめます。ここに、空気とび生物をまぜます。び生物がよごれを食べて大きくなり、すめます。上にどうめいな水が残ります。においもある

まりありません。薬を入れて、きんをころした後、きれいなになった水は、しよ理場の近くの川に放流されます。

び生物をませた茶色の汚水をけんびきょうで観察すると、つりがねむし、くまむしが元気に動いていました。目に見えないび生物の力でまち中の汚水をきれいにしていることを知り、とてもおどろきました。

水を入れたペットボトルに、トイレトペーパーとティッシュペーパーをそれぞれ入れて、十秒間ふり、水へのとけぐあいを比べる実験をしました。トイレトペーパーは水にとけていましたが、ティッシュペーパーは、とけておらず、ペットボトルから出すのが大変でした。水に流せるティッシュでも試してみました。なんと「流せる」と書いてあるのに、水にとけませんでした。トイレトペーパー以外の紙をトイレで流すとつまる原因になることがわかりました。

地球上の水の量は、大昔からほとんど変わっていないそうです。それは、水は自然の中をグルグルとじゅんかんしているからです。これを「水じゅんかん」といいます。海の水が太陽の熱で温められてじ

よう発し、雲になり、雨や雪となって川や海に流れ、浄水場できれいな水になります。そのくり返しのおかげで、私達は生活できています。だから、使った水はきれいにして、自然に返さなければなりません。下水道と下水しよ理場は、まさに水のリサイクルを行っているのです。また、下水しよ理場には、ただ汚水をきれいにする役割だけでなく、まちを清けつにする、まちをしん水から守る、川や海を守る、エネルギーや資源をつくるという四つの役わりがあることも教えてもらいました。

台所、トイレ、お風呂、洗たくなどで使った水は、リサイクルされています。少しでも、きれいな水を自然に返すために、水をよごさないように気を付けたいです。油、かみの毛、ごみをはい水口に流さない、トイレでは、トイレトペーパー以外の紙を流さないよう気をつけたいと思います。水のリサイクルで未来にも、きれいな水をとどけたいです。